

グローバルトップへの挑戦で 世界の未来を創出

執行役専務
須藤 亮



2011年は、東日本大震災とそれによる電力不足やタイの大洪水による操業停止に加え、円高、欧州ソブリン債務問題などグローバル経済の先行きが不透明さを増し、非常に厳しい年でした。

このような状況のなかで、当社は、“グローバルトップへの挑戦”を経営方針に掲げ、NAND型フラッシュメモリや原子力発電プラントに続く事業として、統合ストレージ、スマートコミュニティ、パワーエレクトロニクスと電気自動車 (EV)、再生可能エネルギー、ヘルスケア、及びデジタルプロダクツ融合製品の六つの重点領域を定義し、グローバル展開を加速しています。時代の大きな流れを確実に捉えてイノベーションを更に進化させ、地域のニーズにも配慮した世界初、世界No.1の商品やサービスを生み出して世界の未来を創出するよう、開発を進めています。

また、東日本大震災からの早期復興に向けて、今までの技術資産を最大限に活用し、短期間での被災・休止中の火力発電所、送変電設備の復旧・再稼働の支援をするとともに原子力発電所の早期安定化に貢献したほか、復興街づくりに向けた支援や提案を行っています。

2011年の主な技術成果は、以下のとおりです。

- ・統合ストレージでは、19 nmプロセスを用いた世界最小チップサイズの64 GビットNAND型フラッシュメモリを開発、厚さ9.5 mmで記憶容量1 T (テラ:10¹²) バイトを実現した2.5型HDDを商品化
- ・スマートコミュニティでは、関連技術を開発するとともに、実証・商用プロジェクトへの参画や、スマートメータで世界トップシェアを持つランディス・ギア社を東芝グループの一員に加えたことによる、グローバル展開を加速
- ・パワーエレクトロニクス・EVでは、鉄道車両向けに低騒音でメンテナンスの省力化を実現した永久磁石同期電動機 (PMSM) 主回路システム、及び高耐圧で省エネに適したSiC (炭化ケイ素) デバイスを用いた小型インバータを開発、当社製のSCiBTM バッテリーモジュールをEVに供給
- ・再生可能エネルギーでは、受注した全国7か所のメガソーラーシステムが営業運転を開始するとともに、当社の高い技術力が評価され、ケニア最大の地熱発電向け発電設備を受注
- ・ヘルスケアでは、低被ばくで高画質の全身用X線CT (コンピュータ断層撮影) 診断装置や、新画像エンジンにより高品質の臨床画像を提供する超音波診断装置を商品化
- ・デジタルプロダクツ融合製品では、世界最軽量で薄型化を追求したモバイルノートPC (パソコン)、当社独自の映像処理技術により専用眼鏡なしで大画面3D (立体視) 映像が楽しめる液晶テレビ、レグザやレグザブルーレイとの連携機能を実装したレグザタブレット、及び6チャンネル分の地上デジタル放送を毎日録画して15日分一時保管するレグザサーバーを商品化
- ・福島第一原子力発電所の早期安定化に向けた取組みでは、現場での被ばくを抑えるためのガンマカメラによる放射線計測技術や汚染水処理装置の開発などで貢献

以上、未来を見据えた東芝グループの技術開発の状況と成果の一端を紹介いたしましたが、ぜひ本文をご一読いただき、皆さまのご助言、ご指導をいただければ幸甚です。